

伐採と造林の連携に向けた地拵え検討会を開催しました

令和6年3月6日（水）、豊田流域林業活性化センターの主催により、長門市において行政関係者、伐採事業者、造林事業者の実務担当で「伐採と造林の連携に向けた地拵え検討会」を開催し、13名が出席しました。

これは、市有林で実施している伐採及び造林作業の現状を把握し、課題を整理・共有した上で、連携に向けた今後の方向性を確認するために開催したものです。

まず、室内において再造林の必要性や連携のメリット・デメリット、補助事業における取扱い等について長門農林水産事務所の職員が説明し、伐採と造林の作業時期、連絡調整のタイミング、伐採時に発生する残材や集材路の取扱い等について意見が活発に交わされました。

その後、主伐及び機械地拵えを実施した市有林に移動し、機械地拵えの仕上げの程度、造林作業が行われることを念頭にした伐倒方向や造材箇所、集材路のつけ方などについて改めて意見交換しました。

また、コンテナ苗専用の植穴掘り器による植穴掘りや2,000本/ha植えの間隔確認も行いました。

伐採側・造林側のお互いの話を普段聞けないためか、出席者からは、質問や意見が時間になるまで絶えませんでした。

最後に、今回の検討会の内容を踏まえて、次年度に市有林事業において伐採と造林が連携していく体制を具体的に検討していくことを確認しました。



室内検討の様子



現地検討の様子